大阪府北部地震　救護班初動班報告書

2018 年 6 月 18 日に発生した地震により、初動班は午前 8:30 頃からスタンバイとなった。スタンバイ状態が続いた午前 12 時 30 分頃、初動班派遣決定の報告を受け、初動班 9 名は当院のロジスティクスセンターに集合となった。初動班の主目的は避難所のアセスメントを行い、医療ニーズ等の有無を探ることであった。但し状況によってはそのまま医療救護活動に移行することも予測されたため、救護バッグや鎮痛剤、破傷風トキソイド等も車に積み込んだ。国内救援課長からのブリーフィング後、出発式を経て茨木市保健医療センターへと向かった。

ブリーフィングの様子

午後 2 時 30 分頃茨木市保健医療センターに到着し、保健師から現在の情報を入手した。情報によると避難所にはあまり人がおらず、近隣の医療施設もほぼ問題無く稼働していることから緊急の医療救護活動はその時点では必要では無いとのことであった。センターの保健師が避難所のアセスメントから戻ってきているところであったため、午後 3 時頃から保健医療センターとの合同ミーティングを行い、最新の現場情報を入手した。その後、初動班内での協議の結果、日赤として初動班を 2 チームに分けて 2 か所の避難所をアセスメントすることになった。アセスメント先は、その時点で避難者が最も多く、また近隣に損傷が激しい集合住宅があるため今後避難者の増加が予想された穂積小学校と、不確定ながら避難者が増加する可能性があった天王小学校とした。

チームミーティングの様子

発災当日であり茨木市内の道路は非常な混雑が予想された。従って協議の上保健医療センターの自転車を使用して、午後 4 時 30 分頃保健師先導のもと避難所へ向かった。穂積小学校は避難所として機能しており、衛生面、環境面

損傷が激しい集合住宅

でも問題無い場所であった。但し近隣の集合住宅は情報通り損傷が激しく、夜間の状況は不透明であった。天王小学校も衛生面、環境面で問題無く、心配された避難者の増加も無いとのことであった。避難者数は少なく、夜間は校長から体操マットを敷く旨説明された。

午後 6 時頃 2 チームが保健医療センターに帰着、ミーティングを行い当院への提言として、医療ニーズは現時点では無く、まずは保健医療センターとの情報交換に務めることとした。保健医療センターへは、避難所まで来ることができない高齢者や身体障害者の情報を収集して頂きたい旨伝えた。また、翌日は雨天の予想であったので車に積み込んでいたブルーシートを保健医療センターに渡した。

デブリーフィングの様子

病院帰着には 1 時間 30 分程度要し、午後 8 時頃全員無事に帰着した。その後実施したデブリーフィングでは、短時間ながら素早いチームビルディングから効果的な活動ができたこと、もう少し早く出発できていればもっと情報収集ができ、より効果的なアセスメントができていたかもしれない、等の意見が出た。